

平成21年度 第7回 鳥取市生活交通会議
議事要旨

1. 日時 平成22年1月27日(水) 10:00~12:00
2. 場所 鳥取市役所 本庁舎6階 第1会議室
3. 出席者
- | | | |
|--|---------------------------------|-------|
| 会長 | 〔学識経験者〕 鳥取大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻准教授 | 谷本 圭志 |
| 副会長 | 〔鳥取市〕 都市整備部長 | 田中 政幸 |
| 委員 | 〔住民利用者代表〕 市自治会連合会(旧鳥取市,国府町,福部町) | 南部 敏 |
| | 〃 (河原町,用瀬町,佐治町) | 谷村 萬吉 |
| | 〃 (気高町,鹿野町,青谷町) | 水上 洋八 |
| | 市老人クラブ連合会(旧鳥取市,国府町,福部町) | 前田 豊 |
| | 〃 (河原町,用瀬町,佐治町) | 田淵 丹次 |
| | 〃 (気高町,鹿野町,青谷町) | 本部 享司 |
| | 〔運送事業者〕 日ノ丸自動車株式会社 取締役営業部長 | 中村 芳晴 |
| | 日本交通株式会社 バス営業部次長 | 中嶋 敬治 |
| | 西日本旅客鉄道株式会社 鳥取鉄道部運輸科長 | 三谷 宏志 |
| | 県ハイヤータクシー協会 | 橋本 貞治 |
| 〔運送事業者労組〕 私鉄中国地方労働組合 日ノ丸自動車支部鳥取分会執行委員長 | 村上 恵 | |
| 〔中国運輸局〕 鳥取運輸支局主席運輸企画専門官 | 但住 和雄 | |
| 〔警察〕 鳥取警察署交通第一課長 | 岡本 英治 | |
| 事務局 | 鳥取市都市整備部交通対策室(中村、鈴木、遠藤) | |

協議事項

(1) 地域公共交通活性化・再生総合事業（計画事業）に係る事後評価について

【事務局が説明】

- 谷本会長 説明内容について追加すべきと思う事項や質問はあるか。
- 南部委員 福部町では過疎地有償バスが運行しているが、国や市の関係でないから、資料に掲載されていないのか。
- 事務局 今回は国への報告であるので、その対象事業のみの資料となる。
- 南部委員 収支があっておらず、それについては市が負担するとのことだが、市としてはこの負担を永続的に続けるのか。赤字体質から脱却することが難しいと思うが、これについては予算を付けて運行させるという考えなのか。
- 事務局 今の運行内容で継続していくことは費用面からも難しいと考えているので、利用促進に加え、ルートや便数等の調整により、収支率を上げるような形で継続できればと考えている。ただし、今後も赤字があまりに大きいようであれば、継続に関して考えていかなければならない。
- 谷本会長 今の質問は、自立性や持続性ということで、今後もやっていけるかということだと思う。ただ、湖山循環バスは湖山地区の住人、特に南北の移動がしづらい地域での実証実験という経緯があり、意図としては路線再編の可能性があるかということについて検証し、市の財政負担を軽減できる可能性を見出して行きたいという取り組みである。それで、湖山に検証できるフィールドがあるのではないかとということで湖山循環バスを実施している。だから、湖山で採算が合わないから失敗ということではなく、合わないなら合わないで路線再編の仕方の問題点や教訓を得るということに意味があると思う。ただ、当然負担は減らしていかななくてはならないので、そのためにどういった体系が良いかを検討する先例が湖山循環バスだと思う。
- 南部委員 湖山循環バスの平均が1.8人/便であり、人口の割に少ないと感じるが、改善策はされているか。
- 事務局 広報は引き続いて行っている。また、2月1日からは住民の方の意見を反映し、一部ルートを変更して運行する。
- 中嶋委員 南部委員のご意見に対してだが、このような実証運行では、例えば病院・大規模店舗等にルートを伸ばせば乗客が増えることもあると思うが、既存ルートとの競合もあり、基本的には実証運行はバス空白地域で運行ということを前提に行っているということもご理解いただければと思う。
- 橋本委員 乗車人数は、より細かい時間帯や利用状況について評価を載せた方がよいのでは。
- 谷本会長 事業内容より、事業で何がわかったかを記載してほしいと思う。
- 谷村委員 平均1.8人/便であるが、採算ベースでは1便あたり何人程度の乗客が必要か。
- 事務局 採算ベースでは10人以上必要となる。
- 水上委員 湖山駅に停留所が必要と言っている人が多いようだが、どの程度湖山駅に向かって人が動いているのかという分析も必要だと思う。湖山循環バスは実証運行としてはうまくいっているという感じもするが、今の状況を見ると心もとない。これだけでは継続する理由にはならないという気はする。また、交通体系の利便性を最優先としての取り組みについて、どの程度議論されているのかが気になる。バスだけで全てまかなうことは無理なので、鉄道を含めてどのように連携をとって、効率的に利便性を高めるかが重要となると思う。鉄道と連携するという意味で、鉄道も快速的な運行をして、バスとの連携をとるということも考える必要があるのではないかと。

- 事務局 来年度、連携計画に基づき、路線再編も検討していきたいと考えている。
- 谷本会長 来年度以降の取り組み内容や方針についても近いうちに説明が必要だと思う。
では、集まった意見をもとに事務局で修正し、会長の確認をとるという形でもよろしいか。
- 一 同 異議なし。

協議事項

(2) 湖山循環バスのアンケート結果と今後の運行について

【事務局が説明】

- 事務局 生活交通会議のご意見を聞きながら、地元の意見交換を行う予定である。
- 水上委員 学生に合わせた便がほしいという意見に対して、「事業の趣旨からも対応困難」とあるが、事業の趣旨では通勤・通学の乗客は対象とならないのか。
- 事務局 買い物・通院をメインと考えている。
- 水上委員 採算性を考えると通勤・通学が重要となると思うが。
- 谷本会長 通勤・通学が重要であるが、それは湖山循環バスだけでなく、他の路線もそうである。今回の実験で、通勤・通学も対象とした実験をするという手もあると思うが、一方で、なぜ湖山の地区だけそこまで手厚いサービスがあるのかという問題もある。買い物・通院については初めに合意が得られているという経緯がある。
- 水上委員 先程も申ししたが、鉄道との連携でいかに効率よく運行できるかが重要となる。そういう視点を無しにして、実証運行してもあまり意味が無いという気もする。買い物・通院という問題もどの地域にもある問題である。であれば、なぜ湖山だけかという同じ議論は出ると思う。
- 中村委員 現在、車両1台で回せる条件で実証運行を行っている。そのため、通勤・通学時に運行しようとしても、1便しか運行できないという実情もある。そういう制約もあることから、空白地帯で買い物・通院目的をメインにやっっていこうというのが当初の方針であった。現段階では採算面からも、いろいろな制約があるということは、念頭においていただきたい。
- 谷本会長 先程言葉足らずだったかもしれないが、通勤・通学を考えると、ルートはこうはならない。通勤・通学を考えた場合、もう一つ別のサービスを考えなければならぬ。それならば、別に湖山ではなくて他の地域でも実証できるという話が出ると思う。湖山は医療施設や商業施設が多い副都心のような地域で、今回のような趣旨の実証運行を行えるのではということで、実施している。ただ、おっしゃるとおり、どこかで通勤・通学の実験はしなくてはならないと思う。
- 中嶋委員 等間隔運行であり、ポケット時間が5分程度という中では、通勤・通学のような、ある時間帯に合わせようと思うと全ての時間帯に影響を及ぼすという問題もある。
- 三谷委員 事務局に確認だが、JRとの接続向上はどのように考えているか。
- 事務局 JRダイヤとの接続を考えている。
- 三谷委員 毎年3月にダイヤ改正を行うが、例えば湖山駅発着は時間的に不規則な運行となっている。そのため、バスが規則的に運行するとなれば、現実論としてJRとバスを合わせるの難しいのは無いかと思う。

- 事務局 実証運行開始に際して、ＪＲとの接続も考えているが、全便合わすのは困難であるため、できる範囲で接続を設定している。新たなダイヤについてもなるべく接続できるようなダイヤ編成にできればと考えている。
- 水上委員 私は鹿野に住んでいるが、バスとＪＲを乗り継いで鳥取市内に出ると考えた時、浜村駅での接続がかなり悪いと思う。
- 三谷委員 ＪＲもダイヤ改正時にそれぞれのバス事業者に説明している。無理を言っているところもあるが、できる限り接続を良くするという取り組みもしている。
- 中村委員 基本的に、浜村や青谷についてはできる限り接続に対応する形で変更する予定である。特に、通勤・通学ダイヤについてはできるだけ接続するようにしている。その他にも、もしどうしてもという要望があれば、途中ででもダイヤ変更は考える。
- 南部委員 逆ルートの要望が多いということで、改善案２のルートが考えられたと思うが、湖山池沿いのルートが無くなっているが、ここからの利用者は少ないのか。
- 事務局 あまり多くない。こちらも地元説明で再度、意見を伺う。
- 本部委員 どのような方法で地元説明するのか。公民館に集まってもらうか、一軒ずつ回って説明するか等によって大きく違うのではないか。また、私も実際に浜村青谷線が運行している地域に行って、４０～５０歳代の女性４～５人に話を聞いたが、ほとんどの方が知らなかった。やはりどのようにＰＲするかが大事だと実感した。
- 事務局 地元には、自治会にチラシを持っていき、全戸配布している。また、ご意見を伺うのは、自治会長や区長にお集まりいただき説明する形になる。
- 谷本会長 効果的なＰＲについては難しい問題であると思う。例えば、普段の住民活動の一環で、公共交通の話があってもいいのかなと考えている。今後、効果的なＰＲ等についても模索していきたいと考えており、色々なアイデアもいただきたい。
- 橋本委員 湖山地区はタクシー会社も２社ある。循環バスの利用者が多い時間帯と少ない時間帯で、バスとタクシーの役割分担することでも経費的に抑えられるのではないか。今後、地元の根づいたタクシー会社の活用で、経費的にも貢献できるのはと考えている。また、ＰＲについてだが、自分の経験からも、「これでもか」というくらいにＰＲしていかないと根づかないと思う。
- 谷本会長 では、この方針で地元の説明し、その結果を受けてどうするかということをして２月に説明するという手順で進めたいと思うが、よろしいか。
- 一 同 異議なし。

報告事項

- (１) 高齢者等バス運賃優待制度の状況について
- (２) 過疎地有償運送について
- (３) 市政要望について

【事務局が説明】

- 谷本会長 質問・意見等あるか。
- 一 同 特になし。

以上